

マスターの4ソースをKVMで管理し、効率的な運用と安定稼働を実現
 マスター環境で1名で監視できる自社システムを構築



— システムの一元管理とセキュリティ対策、安定稼働の実績が ATEN 採用の決め手に —

導入先



株式会社ジェイ・スポーツ

導入製品

マルチポート IP-KVM スイッチ・コンソールステーション・KVM ケーブル

活用シーン

テレビマスター (主調整室)

用途

テレビマスターの送出端末の操作と状態監視



概要

スポーツテレビ局、株式会社ジェイ・スポーツは2022年6月に東京・青梅のテレコムセンタービルの新本社に放送設備を移転して運用を開始した。移転に伴う放送設備の更新で ATEN の KVM スイッチの KN8132V、KA8288 等の機器を導入した。移転に伴う設備更新では、

- 1) ネットワーク接続によるセキュリティ対策とネットワーク管理の問題
- 2) 遠隔操作時に担当者が操作端末に移動するロスは避ける

という点が課題になっていた。ATEN の KVM スイッチは、KVM (映像信号とキーボード、マウス (USB)) 信号のみで機器の遠隔操作をするため、IP 通信と分離したセキュリティ対策となり、複数の異なるシステムを一元的に操作できる利点があるため、採用に至った。

ATEN 製品が評価された背景には、同社で2012年からクリティカルなシステムで ATEN のアナログ KVM 製品を利用しており、10年間無事故で安定運用していたことがあった。移転後も ATEN のサポートを受けながら、安定稼働している。



ジェイ・スポーツ 技術運用を統括する皆様に ATEN 製品の導入理由をお聞きしました。

取材日: 2023年9月29日

取材 ご協力

株式会社ジェイ・スポーツ

技術本部 運用統括部 副部長 高橋健太郎様 (写真中)

技術本部 運用統括部 奥野篤史様 (写真左)

株式会社トラストネットワーク

送出技術課 サブチーフ 増田翔太様 (写真右)

【ご担当業務】テレビ番組の送出及び監視、機器の管理

当社では2021年9月に本社を移転し、翌年2022年6月に放送設備の移転をしました。移転に伴い、一部の設備を刷新しています。以前から部分的に KVM の導入は行っていましたが、今回の移転を機に KVM で複数のシステムを一元的に管理していきたいと考えました。

移転前の課題としては、遠隔操作にリモートデスクトップを使う際に担当者が端末に移動して操作を行なう必要があり、ロスが生じていました。また移転後も複数のベンダーの機器を利用するため、ネットワーク管理やセキュリティ面での懸念がありました。これに対し ATEN の IP-KVM は、KVM 信号での遠隔操作に特化しており、セキュリティ面の心配がないことや、KVM のネットワークさえ構築できれば、複数のシステムを疎結合で運用できるため、採用しました。

今回 ATEN 製品を採用した背景には、10年以上前に導入した ATEN の KVM が安定稼働していたことがあります。2012年2月頃から気象情報や災害系のクリティカルなシステムで ATEN のアナログ KVM を利用していましたが、10年間、支障なく運用ができていました。こうした実績から、ATEN の製品であれば信頼できると考え、マスター環境で利用する IP-KVM スイッチとして選定しました。ATEN からデモ機を貸してもらい、負荷テストができたのも助かりました。移転前には ATEN の神田ショールームでオンライントリアルでリモートのテストもしました。

今回導入した KN8132V は、マスターと災害情報、回線センター、字幕室といったオンエアにかかわる4つのシステムと接続して使っています。マスター環境では、現行機とバックアップで2台を配置しています。こうしてマスターで4つソースを KVM スイッチでつなぎ、責任者がひとりですべてを監視できるようにしています。また絵と音を重視する構成では KA8288 を使っています。

現在、移転後の運用を開始して1年以上が経ちましたが、安定稼働しています。

導入のポイント

課題・要件

- リモートデスクトップ方式での操作端末に移動するロスを解消したい
- Sler に依存せずに、自社で複数のベンダー機器の構築、運用を行いたい
- マスター監視室の操作・監視を1名で対応できるようにしたい

導入効果

☑ 端末の遠隔操作や監視が可能に

→ IP-KVM スイッチを介して遠隔で端末の操作ができるようになり、機器の操作のための移動のロスをなくし、業務の効率化に寄与。担当者1名でテレビマスター全体の管理を行っている。

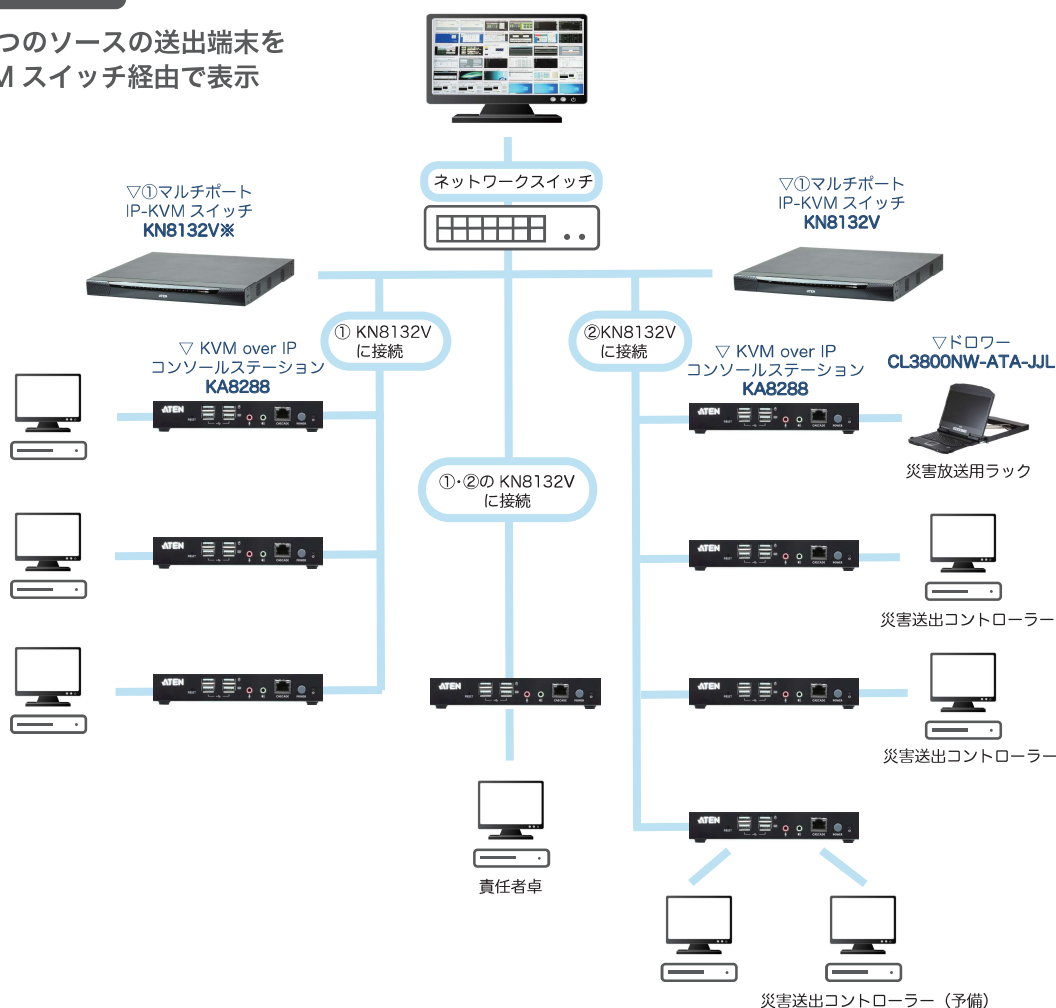
☑ セキュアな環境で複数システムの一元運用を実現

→ 複数のシステムやネットワーク機器を自社内で管理するにあたり、IP-KVM スイッチの利用で、セキュリティ上の懸念を回避しながら、異なるシステムの一元的な運用が可能に。

KVM のシステム構成（概要）

テレビマスター監視室

監視対象の4つのソースの送出端末を常時、IP-KVM スイッチ経由で表示



※ KN8132V は 2023 年 1 月 11 日に販売終了しました。

導入製品情報

マルチポート IP-KVM スイッチ

●KN8132V



遠隔でインターネットブラウザを使用して複数のサーバーへのアクセスやモニタリングができるマルチポートタイプの IP-KVM スイッチ

KVM over IP コンソールステーション

●KA8288



PC やラップトップの代わりとなる独立型のコンソール。IP-KVM スイッチに接続されているサーバーに遠隔でアクセスし、モニタリング監視や制御が可能

コンソールドロワー

●CL3800NWJLL



18.5 インチワイド画面 LCD モニター・キーボード・タッチパッドを 1U サイズに統合したコンソールドロワー

コンピューターモジュール

●KA7170-AX



USB と VGA に対応した PC・サーバーとの接続に利用

●KA7166-AX



USB と DVI に対応した PC・サーバーとの接続に利用

導入現場の写真



▲ テレビマスター監視室
監視対象の 4 つのソースの送出端末を IP-KVM スイッチ経由で表示。責任者 1 名が全体を監視



▲ テレビマスター監視室にあるマルチポート IP-KVM スイッチ (KN8132V)



▲ テレビマスター監視室にある監視用コンソールのひとつ。KVM over IP コンソールステーション (KA8288) を設置



▲ サーバルーム内でも ATEN のドロワーを用い、サーバーを操作

